



晴天の心

立教 188 年 7 月号
大阪府富田林市寿町 4-9-10
URL: www.tomiishi.net

TEL: 0721-23-3466 090-5243-4669



月次祭 8月19日(火) 午前10時～
婦人会例会 8月9日(土) 午前10時～

今年の梅雨は短かったですね。そして教会の庭で蝉の鳴き声が少ない・・・

もしかすると桜の樹が無くなったからなのか？
ちょっと寂しい夏です。

昨年から再開された、夏のこどもおぢばがえり、7月27日から8月4日まで開催されます。期間中様々な行事が行われますが、基本は予約が必要となりました。これは、感染症対策の影響です。そのときの状況にあわせての行事開催が必要となってきています。おぢばに帰ってくる子どもたちが、楽しく教えを学び何か一つでも思い出として心に刻んだ帰ってもらいたいと受け入れに携わっている人は考えています。

三つの約束は、こどもおぢばがえりの期間中あちこちで啓蒙されていますが、この内容は、大人にとっても陽気ぐらしを、目指す上でとても大切なことに繋がります。

「感謝・慎み・たすけあい」このキーワードに繋がっていくのです。どうぞ期間中、おぢばがえりを楽しんでください。

なお、南河内支部鼓笛隊は、8月1日お供え演奏出演、2日リトル隊オンパレード出演、3日本隊オンパレード出演の予定となっています。宿舎は高安詰所。このオンパレードを見るのもとても楽しいですよ。ぜひ、おぢばへ。

生きるよろこびを
味わいます

ものを
大切にします

仲良く
たすけあいます

私たち一人一人が生かされていることに感謝し、毎日を喜ぶことができたらどんなに素晴らしいことでしょう。

私たちは、「こどもおぢばがえり」を通して、生きていることは決して当たり前ではなく、親神様の絶えざるお働きがあればこそなのだとすることを子供たちに伝え、生きる喜びを心から味わえる子供に育ててもらいたいと考えます。

こどもおぢばがえり会場マップ



- ① 朝のおつとめ
- ② 廻廊ひのきしん
- ③ おつとめまなび教室
- ④ おやさとやかた講話
- ⑤ 鼓笛お供演奏
- ⑥ 鼓笛オンパレード
- ⑦ バラエティー188
- ⑧ アスレチックBOX
- ⑨ アチコチランド
- ⑩ こども横丁
- ⑪ チャレンジパーク
- ⑫ ショパン救出大作戦
- ⑬ ピッキーステージ
- ⑭ みちの子作品展
- ⑮ 南参道ライトアップ

- しこみ・ふせこみ行事
- おたのしみ行事【屋内】
- おたのしみ行事【屋外】
- お茶所
- カレー食堂
- 救護所

地図の番号と
行事名の番号を
合わせて見てね★



人の心程難しいものは無い。

「人の心」

今日の
おやのことば



おさしづ 明治40年4月10日

梅雨明けの青空の下、ある場所で草刈りの手伝いをしました。重度の心身障害のある人たちの施設です。

毎年、草刈りや清掃のために訪問していても、入所されている方たちと実際にコミュニケーションを図るのは難しい。言葉やアイコンタクトといった、一般に使われる方法が通用しないケースが多いからです。

それでも、毎日生活を共にしている職員の方々は、言葉も身ぶりも通じない相手と心を通わせています。そのためには、ただ身の回りの世話をするだけではなく、一日に何度も声をかけ、体に触れて刺激し、相手の反応を引き出して、その意味を確かめる。こうした地道な働きかけを、長年積み重ねる必要があるそうです。

「人の心程難しいものは無い」

普段の生活の中では、それほど相手の反応に心を配ることはありません。言葉や身ぶりを使ったコミュニケーションが容易な相手とは、意思の疎通ができていいると考えがちです。

それでも、相手の細かな反応や表面には表れない思いへの配慮を怠ると、思わぬ勘違いや失敗をすることも少なくありません。特に、親子や夫婦といった身近な間柄では、細かな配慮がなくても、相手の気持ちはよく分かっていると思ってしまう。小さなすれ違いも長年積み重ねると、大きな溝になることがあります。やはり、いつも相手の気持ちを確かめる意識が必要ですね。(岡)

．．．

おさしづ 明治四十年四月十日（陰暦二月二十八日）午後五時半 だん／＼と御諭を受けまして、理の取違いより遂に人を恨みました事も、真の心よりさんげ申し居り、本人まさゑもこれに居ります。今後は如何なる精神も取り決めさして頂くと申し居ります、と申し上げ

さあ／＼悠っくり筆を執り、あちらこちら理を諭す。神というものは付き合いよいものゝ、人の心程難しいものは無い。もうこれ年限というものは長い年限。よう／＼の理に及んだる。神は悪い事一つも言わせん。皆可愛から一つ／＼理以て深い理論する。よう聞き分けてくれ。これまでの処どうしてこうしてどういう事あろう、思い／＼の年限経った。これから先は思うようにしようと言うても成るものやない。この道というは、もう言うまでのものである。金銭づくで求められやせん。国々所々あちらこちら遠き所より運び来る。又日々稼ぎという、皆働いてる人の事を思え。金銭稼ぎ、朝晩まで働いたとて、何ぼうのあたゑあるか、よう思やんせい。これまでに経ち越したものの、後戻りしようと言うてなるものやない。親から／＼親から、親が子に悪い事何一つとして教えるか教えんか、よう聞き分け。神のやしきに住んで居る者悪い事何言うものか。まして悪い事神が何言うか。こうして今までの処／＼詫々と言え、日々仲好く出来るか／＼。さしづ通りにすれば今までの処許す。何年経ったらどう、幾年経ったらどう、未だ／＼六七年七八年未だ／＼ある。又それから先長い道と言うたる。これをよう聞き分けてくれにやならん。三軒三棟を一つの心に治めるなら、その心楽しんでくれ。一言押して話に伝えて置こう。

しばらくして

さあ／＼もう一言々々、余分一人をこちらへ納めるといふ、これ深きいんねん／＼。さあかんろだいという理何と思つて居るか。その明かりで照つてある。この世へ出た人間というは、何程の理というや分からせんで。これをよく伝えてやってくれ。この理治まれば、何よの事も皆分かる。又々ついでを以て諭す。教祖子供中に、よく聞き分け、聞き分けの出来ん者あつたやろう。さあ／＼決まって決まらん。年限追うて年取りて年寄りて一つ理を結ぶため、それより未だ伝わたる。その結構見せてある。その中に理の治まらん者は、ほこりの屋形と残し置いたる。皆これから取り持つて道という理、ひながた見て明らかに一つ理聞かしてやってくれ。

キラキラ

ある日の夕食の時の話し。

娘と夕食を食べているとき、ガンダムジークアクスの話になって、11話でデクノバが起こったときの渦が巻いたようなキラキラの映像があった話になって、「あのキラキラ私は見たことがある。あれは、おぢばのかんろだいで発生する。修養科2ヶ月目の時、担当していた教養係の先生が、今日、おびやのおつとめがつとめられるけど参拝に行くか？と、聞かれて、参拝に行ったときのこと。かんろだいつとめ、このときはおびやのおつとめが始まると、かんろだいを中心に言葉で表現できないようなキラキラの光りの渦が巻きはじめた。参拝場の外には広がらず参拝場の中で、すごい光景が広がっていた。」



12話の残り9分くらいのところで、エルメスと白いガンダムがキラキラの光りの渦に取り込まれていくシーンを視て、「この中心がかんろだい、そう！こんな感じに光ってたのよー！」

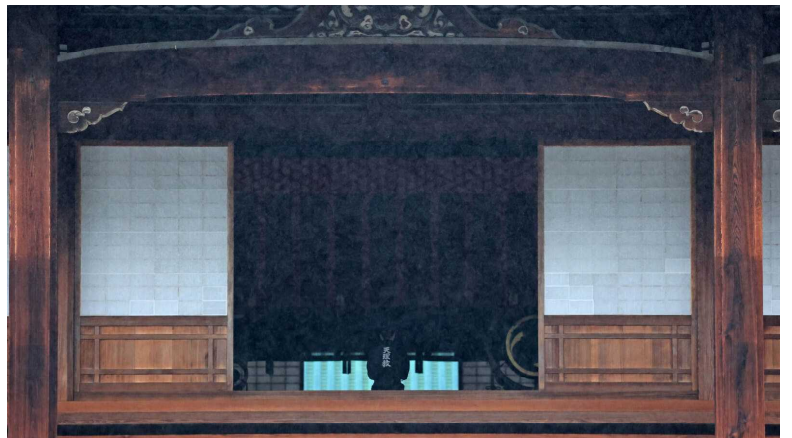
あれほどの光りは後に視たことがないらしい。月次祭のかぐらつとめは昼間だから見えにくいのかも知れない。

アニメなんてとっていると、足下すくわれる作品が結構あります。どんな作品でも、ただ観るのではなく作者の伝えたかった意図を考えながらその作品に浸るといろいろ見えてくるからなおさら面白い。ジークアクスの場合は、エンディングの内容が実は少しずつ変わっていて12話以降の内容になっていることが推測されるなんて見付ける人がいるからすごいね。

あらためて、おぢばが強力なパワースポットであることに揺らぎないことが娘の体験からまた教えられました。

7月26日は登殿参拝。年祭向けの3年間の期間中、1度だけ教会長は本部月次祭において、神殿参拝場で、着座して参拝します。日程は各直属に申請して決められます。

今回は25日午後から詰所に集合して、事前に講習などを受けて宿泊。翌日は教服で参拝です。神殿参拝場内は上記パワ



ーがみなぎってキラキラしている渦の中となるわけですが、このとき、自分の心は何処を

むいているのか？実は着座した位置によっては、かぐらつとめの際に、かぐらておどりが見えることがあるのです。中には中腰になってみようとする人もいます。そのとき、その人の心はどう動いているのだろうか。そこで見れたことを純粋に喜んでいるのか？もっと見たいと思うのか？などなど、その場で本来すべきことではないところを使っているのではないだろうか？

キラキラの渦中にいるとき、大事なことは、その場に座れることの喜びを感謝、そして、そこで感じたことを、如何に伝えるか？、なにより、一心に唱和して様々なことで苦しんでいる人の助かりを願うことが、キラキラをもっと輝かせるようにぢばへ、神様へ、おやさまへ力をこころを寄せることになると思う。

朝夕のおつとめにおいても、うつむいて下を向いて務めるのではなく、顔を上げて神棚の鏡を見て務めることがとても大切なのです。

そのこころを受け取って、神様は、大難を小難、小難を無難にご守護くださるのです。

<<教祖伝逸話編>>

74.神の理を立てる

明治13年秋の頃、教祖は、つとめをすることを、大層厳しくお急き込み下された。警察の見張り、干渉の激しい時であったから、人々が躊躇していると、教祖は、

「人間の義理を病んで神の道を潰すは、道であろうまい。人間の理を立ていでも、神の理を立てるは道であろう。さ、神の理を潰して人間の理を立てるか、人間の理を立てず神の理を立てるか。これ、二つ一つの返答をせよ。」と、

刻限を以て、厳しくお急き込み下された。

そこで、皆々相談の上、「心を定めておつとめをさしてもらおう。」ということになった。ところが、おつとめの手は、めいめいに稽古も出来ていたが、かぐらづとめの人衆は、未だ誰彼と言うて定まっていなかった。このため、これもお決め頂いて、勤めさせて頂くことになった。また、女鳴物は、三味線は飯降よしえ、胡弓は上田ナライト、琴は辻とめぎくの三人が、教祖からお定め頂いていたが、男鳴物の方は、未だ手合わせも稽古も出来ていないし、俄のことであるから、どうしたら宜しきやと、種々相談もしたが、人間の心で勝手に出来ないという上から、教祖にこの旨をお伺い申し上げた。すると、教祖は、



「さあさあ、鳴物々々という。今のところは、一が、二になり、二が三になっても、神が許す。皆、勤める者の心の調子を神が受け取るね。これよう聞き分け。」

という意味のお言葉を下されたので、皆、安心して勇んで勤めた。山沢為造は、一二下りのてをどりに出させて頂いた。場所は、つとめ場所の北の上段の間の、南に続く八畳の間であった。

87.人が好くから

教祖は、かねてから飯降伊蔵に、早くお屋敷へ帰るよう仰せ下されていたが、当時子供が三人ある上、将来の事を思うと、いろいろ案じられるので、なかなか踏み切れずにいた。ところが、やがて二女のマサエは眼病、一人息子の政甚は俄に口がきけなくなるというお障りを頂いた。このため、母親のおさが教祖にお目にかかせて頂き、

「一日も早く帰らせて頂きたいのでござい

ますが、何分にも櫟本の人たちが親切にしてくれますので、それを振り切るわけにもいかず、お言葉を心にかけながらも、一日送りに日を過ごしているような始末でございませう。」と申し上げると、教祖は、

「人が好くから神も好くので。人が惜しがる間は神も惜しがる。人が好く間は神も楽しみや。」と、仰せ下された。

おさとは重ねて、「何分子供も小そうございますから、大きくなるまでお待ち下さいませ。」と申し上げると、教祖は、

「子供があるので楽しみや。親ばかりでは楽しみがない。早う帰って来いや。」

と仰せ下されたので、おさとは、「きっと帰らせて頂きます。」とお誓い申し上げて帰宅すると、二人の子供は、鮮やかに御守護を頂いていた。かくて、おさとは、夫の伊蔵に先立ち、お助け頂いた二人の子供を連れて、明治14年9月からお屋敷に住まわせて頂く事となった。

